

# れた一の森



ヨシのある環境と文化を  
市民参加で守り継ごう―  
琵琶湖の畔で始まった  
活動の伴走者、来町。

豊葦原の瑞穂の国一かつての日本には、ヨシが風に揺れる広大な草原があちらこちらにあったはず。現在は激減してしまいましたが、近江地方と呼ばれる滋賀県の琵琶湖畔には、まとまったヨシ原がまだ見られます。そんな西のヨシの里から、[りあすの森]のヨシ刈り体験会にはるばるお客様(参加者)がやってきました。行政の立場から琵琶湖のヨシ保全活動に汗を流してきた、田井中文彦さんです。御当地近江でも盛んな市民のヨシ刈りと保全活動のことを、いろいろとおたずねしてみました。(2024年2月取材)



田井中文彦(たいなか ふみひこ)

昭和36年 滋賀県東近江市生まれ、在住。  
琵琶湖をはじめとする滋賀の自然環境との共生を目指す公益財団法人淡海(おうみ)環境保全財団に勤務。ヨシ群落の保全や水草の除去、県土の環境美化・自然保護、環境情報の発信を行うなど、琵琶湖の生態系および水質保全のための事業に取り組む。  
2020年に定年退職の後も同分野の研究、保全活動に関わる。

ヨシでつながっていた、近江と北上川。

近江はその昔、淡い海と書いて「おうみ」と呼ばれていました。勤めていた淡海環境保全財団は、大津市を中心に琵琶湖の環境改善をやっている滋賀県の外郭団体です。1992年(平成4)に、県は琵琶湖ヨシ条例を制定してヨシ原の保全に乗り出しました。で、予算をつけ具体的に活動していく専門部署として、財団が翌年設立されました。当時の私、琵琶湖のヨシをどう活用するかで、悩んでは試行錯誤を繰り返していたんですよ。

そこにある日、後に仲間と[りあすの森]を立ち上げる方がひょっこり来たんです。東日本大震災以前、20年くらい前ですね。「おもしろいものがあるんです、見てもらえませんか？」って。それがヨーロッパの茅葺き建築の写真だったんです。これには衝撃を受けましたね。一生の中で一番のびっくりかもわかりません。茅葺きは日本のオリジナルだと思ってましたけれども、草で屋根を葺くのは世界共通の文化だってことに気がつきました。草の中でもヨシは特に一番良い素材なので、ヨーロッパにも南米にも、トルコや中近東にも中国にもある。そんなこと、日本人で知っている人は少ないと思います。

東北のヨシ産地から、ヨシの文化を守り広めるためのパートナーを探して来られたんでしょうね。いろんな人に共感してもらって、味方をつくっていかうと。一人でやっても無勢ですし。それ以来何かとおつきあいが続いているんです。



オランダの茅葺き屋根の新築住宅。欧州諸国で茅葺き屋根は成功者のステイタス・シンボル。(撮影/りあすの森)

写真でいっぺんに価値観が変わってしまった私も、「ハッ！…次の時代、ヨシがいけるかもしれん」と、いろんな構想が浮かびました。ヨーロッパのヨシ屋根をいっぺん見に行きたい。自分もヨシで何か造ってみたい、北上川のヨシ原にも行ってみたいと思いました。河川敷としては日本一といわれるヨシ原、その翌年4月に初めて叶って、すごいなあ、デカいなあと思いました。

でも私が見に来る以前に、実は近江のヨシ業者が来てるんですよ、ヨシの買付けに。北上のヨシ屋さんを、近江八幡の名物近江牛の味噌漬けをお土産に持って回って、現金でぼーん！と買ってたわけです。近江でヨシの使い道はほとんど葦簀(よしず)用。それが売れすぎてヨシ足らなくなっちゃったから北上まで買いに来てたんです。そういうことをずーっと昔からやっていた。私の家も代々、琵琶湖畔のヨシ地を保有する地主で、ヨシの生産業をやっていました。選りすぐった長く良質なものは高級葦簀用、短いものだけを茅葺き屋根に使います。我が家の屋根もヨシ葺きなんです。10年ほど前に葺き替えましたが。



私の子供の頃の記憶はヨシが刈りとられて、船でそれを持ってきて、うちの作業所の前にヨシ束がぼーんと置かれるんですよ。おばあさんがその皮を剥くんです。私も小学校3年生から手伝って、それが生まれて初めてのアルバイト。1本剥いたら1円もらってましたね。いまの価値なら10円ですよ。10本剥いたらアイスひとつ買えました。他に小遣いみたいなものは無かったですから、一生懸命やるほどもらえるし、頑張るならもっと注文受けるっておばあさんも言うてましたから、ひたすら剥いてましたね。剥いたヨシをおばあさんが括って川べりに置いておくと、業者さんが回収して現金を置いていくんです。

ヨシ刈りをイベントに、做いやすいようノウハウ化する。

淡海環境保全財団での仕事ですけれども、そもそもヨシ原を保全するためにすべきことは大きくは2つなんです。刈り取りをやること、これは刈り跡に火を放って焼く「火入れ」も含めてです。あとはヨシを植えること。そこで試みられたのが、ボランティアでした。大津市役所が先行して1990年(平成2)から、これが市民ヨシ刈りのいちばん初めですね。で、大津市が管理するところだけだと琵琶湖のヨシ原の5分の1位しかできないので、5分の4くらいは手つかずになります。じゃあ財団がボランティアを立ち上げてやってはどうだろうということになったんです。啓発も含みながらやっていただけるように。

滋賀では企業も率先してヨシ刈りをやってくれるんです。滋賀銀行さんとか事務機のコクヨさんとか。(※)CSRやその後のSDGsのような動機もある。ボランティア的に動きやすい。宣伝の一環でもあるでしょうけど、でもそのくらいでやっていただけるんやったらありがたいですよ、こちらとしては。たとえば先鞭をつけた滋賀銀行さんは1995年(平成7)か96年からやってるかな。

ノウハウ的には、その地区の自治会さん、企業さんなどの共催という形で、事務局は地元の人で立ち上げ、まず一回実施します。どこへでも熱心に来てくれる助っ人さんもおられるので、その方はダブらないよう、何月何日にどこそこに入ると調整して、なるべくいろんな人が参加できるように日程をつくって。2回目以降はお任せするんです。自分たちでアレンジできますから。そうして最終的に1シーズンに40数力所で実施したこともありますね。

そんなボランティアや企業参加の手法を全国から滋賀県へ視察に来て、ヨシ刈りに参加されて観ていかれるようになりましたね。私たちとしてはぜひ観てください、どうぞ朝のセレモニーのやり方からすべて持ち帰って、アレンジしてやってください、と。これがいちばんキモのところです。

定年後も望めば65歳まで残れたんですけど、私は自分の仕事が終わった感覚がありました。今はね、西明寺(さいみょうじ)という滋賀では有名な古刹があるんですが、その寺男(てらおとこ)という雑用係をさせていただいてます。それ毎日じゃないんで、全国のいままでおつきあいいただいたヨシ屋さんやヨシの市民団体さんのところに行って、どうやったらここのヨシを保全できるのかな、ああでもない、こうでもないと一緒に考えています。最近は夏場にヨシの地上部分が枯れてしまう現象が起きているんですよ。それとセイタカアワダチソウなど外来種の侵食も心配ですね。今はドローンを導入して空撮でヨシ原の状態を調べています。毎年同じ時期に同じ場所を撮ると、いろんなことが上から見てわかるんです。11月の頭くらいに飛ばすと、あの黄色い花の広がり具合とかがね。そういうところを注視しながら、これからも追っかけていくつもりです。

田井中さんのドローンによる北上川ヨシ原の空撮。



琵琶湖畔のヨシ原と、葦簀工場の作業場。

※CSR(Corporate Social Responsibility) 企業の「社会的責任」。社会や環境に配慮した責任ある行動をとり、持続可能な社会の実現に貢献する考え方。  
SDGs(Sustainable Development Goals)国連で定められた「持続可能な開発目標」の略称。

(構成・撮影/渡辺征治)

## 次のヨシ刈り体験会は2026年2月。(\*^^\*)参加をお待ちしています。

### 2025年度後期 実施済み事業

6月■ヒメマイトトンボ環境創出活動～河川敷で水路作業■石巻市立北上小学校5年生ヨシの植栽活動(写真右上)\*これは特定非営利活動法人東日本大震災こども未来基金からの助成金を活用し実施されました。同基金HP <http://www.mirai-kikin.com/>  
7月■岩手大学人文社会学部(塚本善弘教授 環境社会学研究室～地域政策課程/環境科学課程)+岩手医科大学による震災遺構訪問等フィールド学習、北上川河口の清掃活動に随行、実施■ヒメマイトトンボ観察会■仙台二華高生ヨシ葉採取に随行～ヨシ葉をクッキーとせっけんに加工・文化祭で販売、売上をご寄付

いただきました。9月■イヌワシ・アゲイン～南三陸イヌワシ野生復帰プロジェクトキックオフ発表会にオブザーバー参加 11月■北上小5年生ヨシ刈り事前学習～指導・山田一裕教授(東北工業大学環境応用化学科)

### 2025年度内の事業予定です。

2月のヨシ刈り体験、ふるってご参加ください！

12月■北上小5年生のヨシ刈り■河川協力団体活動報告・意見交換会(国土交通省北上川下流工事事務所)  
2025年1月■北上小卒業証書用ヨシ紙漉き 指導:能登仁行(にぎょう)和紙職人遠見和之さん(石川県輪島市/写真右下)  
2月■22日(土)一般公募ヨシ刈り体験[場所]石巻市北上町 北上川河川敷(ヨシ原)詳細は左記Facebookページで



### NPO 特定非営利活動法人 りあすの森

【国土交通省指定 河川協力団体】 ご連絡・お問合わせ

TEL : 0225-67-3767 FAX : 0225-67-2032

Mail : [riasnomori@gmail.com](mailto:riasnomori@gmail.com)

<https://riasnomori.wixsite.com/info>

<https://www.facebook.com/riasnomori/>

〒986-0202 宮城県石巻市北上町橋浦字大須183-2